

土用中に於ける 稲作は概して良い

用水潤澤でないが

晴天多く生育は順調に

石城郡内の土用中に於ける
水稻生育状況に就いては移
植時期以来降雨少く局部的
には灌漑水の不足を告げ移
植困難或は移植後の早害が
ないではないが大部分の地
は用水潤澤ではないけれど
晴天多く高温を持續したる
を以て生育は順調である尙
先頃多少の降雨ありたるを

されん事を希望して止まな
い」と
炭礦の火事 石城郡川
石城郡地方の各炭礦は昨秋
の大震災以来不景氣の聲に
おほはれて今日に及だが本
年上半期の決算成績に現は
れた處を見ると大炭礦とい
はるゝ處のもの程成金時代
以後初めて的好成绩で役員
賞與の如きも磐炭の最高級
役員は一萬圓といふのがあ
り一般でも八十割位(尤も
炭礦の賞與は上に厚く下に
薄し)の者が大分あつた様
な譯で炭礦經營者は概して
不景氣の聲に隠れて生産
費を極力引しめ一方販賣の
方では二三回も値上げを斷
行して巨利を博し近年に見
ぬ成績をあげホク／＼顔

邊村大字小川渡邊炭礦機械
場から七日午前二時半頃發
火し廿三坪を焼失損害八十
圓原因は石炭の燃殻から

なごで賑ふ四倉海水浴場
は全く我赤鉢巻に傾され
て支舞つた
兒童の元氣は頗る旺盛頭
痛い腹痛いなんて言ふ生
徒が時には有るがすぐ治
つて支舞ふ、それよりか
いたづらがはげしい時々
小使さんからおこごごを
頂戴する者がある

甘い汁をす、つて居た

悪徳周旋業の撲滅

夫れには職業紹介所が

非常な力となる

平町會で職業紹介所が設置
されることに決定したが該
紹介所が町民の期待に添ふ
べき理想的のものとなつた
曉には之に依つて救はれる
人は多數に上ることであら
うが之に就て伊藤平署長は
語る『職業紹介所の設置と
共に社會的に改善され救れ
る處が多々ある事を今から
期待してゐるが私として
第一に 希望してや
まぬことは悪徳周旋者の撲
滅である警察署に於ても無
論之が取締に腐心してゐる
が精神の麻痺してゐる彼等
を根絶すると云ふわけには
なかなか行かぬので閉口し
てゐる現在周旋者の執つて
ゐる行動は實に巧妙辛辣を
極めたもので例へば一人の

酌婦を周旋すると其酌婦か
ら手数料として規定の一割
を天引きし自己の收得とす
るが其の代り契約期間又は
責任を 以てその酌
婦を監督せねばならぬ義務
があるにも拘らず之を履行
せず種々なる手段を弄して
他に鞍替を強要し再度莫大
の手数料を獲得すると云ふ
悪辣な事を次から次へと間
斷無く行つてゐるので大概
は酌婦や娼妓などの借金の
起因を質すとその多くは手
敷料が加算された結果だと
云つてゐる斯くの如き
状態では であるから
今回職業紹介所が設置され
ることになれば自然之等惡
徳の徒輩は根絶の運命に逢
着するので一刻も早く實現

石城郡銀行組合にては昨日
道具なして
出来る氷菓
アイスクリームの道具のな
い時は、有合せの圓いブリ
キ罐(お茶つぼでもよい)
の中に材料を入れ、固く蓋
をしめて小桶の真中に入れ
桶と罐との間に水と鹽を一
ばいに詰め罐を手で絶えず
ゆり動かしてゐると、自然
にアイスクリームが出来ま

す、材料のこしらへ方は、
まづ牛乳一合につき、砂糖
大サジ一ぱいの割合にして
なべに入れ一寸火にかけま
す、あまり煮立たぬ位に熱
して火からおろし、よく冷
めてから玉子二つをよくほ
ぐして静かにませ合はせ好
みの香料を少し入れてかん
に入れるのです、かんと桶
との間は少くとも二寸以上

執務改正

十一日から

各銀行の

午後一時から磐城銀行樓上
に於て協議會を開き從來の
執務時間午前九時から午後
四時迄であつたのを一時間
繰り上げて来る十一日より
は午前九時から午後三時迄
に改正すべく決定したと

「ノミ取り初め」當番先
生の號令一下、一同が變
挺子のカツコッで蚤の後
を追ひ廻す。蚤取の名人
は曾我校長、毎朝必ず初
める。蚤は蚤以上にも多
い。酒井と云ふ生徒蚊帳の中
ではたき廻つて手を眞赤
にして居た。四倉校は蚤
と蚊の名所である

此頃屑屋さんの鼻息が荒く
紙屑丈けでは持つてゆかな
い處からゴミはゴミ箱より
今日から立秋 けふ
秋の氣立ち舊七月節となる
も紙屑の方が多いい位で掃除
夫を泣かせてゐるが相場は
紙屑は問題にならないほど
安く古新聞一貫目廿六錢古
ハガキが一貫目廿錢大判の
古雑誌が一貫目卅錢上官報
一貫目五十錢と云ふ安い相
場である

古新聞の相場

一貫目廿六錢

兒童の元氣は頗る旺盛頭
痛い腹痛いなんて言ふ生
徒が時には有るがすぐ治
つて支舞ふ、それよりか
いたづらがはげしい時々
小使さんからおこごごを
頂戴する者がある

銀行検査官 突如平へ

住吉屋本店に 旅装を解いて

大藏省銀行検査官大野龍太
吉田竜雄、神谷淺治の三氏
は福島市に於て百七銀行を
四日間、郡山町の橋本銀行
を三日間夫々嚴重な検査を
爲し其儘歸京するものと思
ひきや本日突如午後一時半
の平郡線にて來平腕車を飛
ばして住吉屋本店に旅装を
解き何事か密議中である
(午後二時四十分稿)

人間の身體の六
割は水分で毎日
二升五合以上の
水分を攝取せね
ば健康を保ち得
ぬと云はれてゐる程多量の
水が入用であるから毎日飲
んでゐる飲料水の良悪はお
互の健康に少からぬ關係が
ある一體
人間に 適當した良
い水はお互の足下の大地の
下にある筈であるが地下水
には多少の鐵分石灰分炭酸
味等を含んでゐる人工的
の井戸は不完全の爲に有害
物が雜つて不良の水となる
爲健康の時差程に

飲料水の 浄化剤

影響が 見ぬが一
旦病氣にでも冒されると例
へば傳染病や脚氣の場合こ
の不良の水が非常に煩を興
へる事になるこの意味で井
戸水は是非一度完全な濾化
をする必要があることは承
知であらうが其方法が今日
まで餘り區々であつた
空気を利用し浄化
する方法や電氣で殺菌する
とか浄化濾素で殺菌する
とか素焼又は砂でこすとか
いろ／＼の方法であるが今
度特許になつた四三〇三六
號の人造藥砂の濾化法も新
に加へられた一つの濾化劑
である之は化學

作用で

この砂を新
らしく製造したものでこの
砂を適當につめて水を入れ
れば殆ど完全に濾化する、
と云ふので既に商品となつ
て家庭用工業用の濾化器も
出来てゐるやうである

石城の壯丁に 中卒が多い

石城の壯丁に
中卒が多い
學術試験の結果
本縣に於ける本年の壯丁總
數は一萬二千七百六十四名
であつたが此内高等專門學
校以上の
學力を 有し學術試
験をされなかつた者が二百
五十六名、無學六十三名で

平町人事

稍讀書、算術の出來た者は
七百二十九尋常を卒業せざ
る者二千四百一尋常卒業
せる者二千九百八十六高等
卒業せざる者七百五十九高
卒四千二百六十八中等校卒
業せざる者千六百五十五中
六百七十で無學の最も多い
のは安積の十一名で少いの
は大沼の零中卒の最も多い
石城の 百五十二で
中卒のなかつたは福島と相
馬で壯丁全員に於て昨年相
り四百八十六名の減少した

△柳町 鈴木留三郎氏長男光
△材木町 吉田大祝氏長男光